

JF大分
水産おおいた
 発行元
 大分県漁協

元年度通常総会開催

については、JF全国集会で決議された「水産日本」の復活に向けて「JFグループの挑戦」に基づき「水産日本」や「水産再編」による漁業の機能再編や中核的担い手漁業者の育成等を通じて、水

泉漁協の令和元年度通常総会が6月27日(木)に大分市のコンパルホールで開催された。冒頭の挨拶の中で、山本組合長は、まず決算について税引前利益300万円、当期剰余金210万円と5年連続黒字を計上することができたことと各々の協力に感謝した。



本年度の主な事業計画に産業の競争力強化や構造改革実現を目指す。また、漁業法等の改正に伴う政省令の改正等に対して漁業者が納得して共有できる方向に進むよう系統を挙げて対応していく。さらには、重点項目として不祥事未然防止体制の確立並びにコンプライアンスの徹底と漁業経営安定対策の拡充・強化のための要請活動の実施などに取り組んでいくと述べた。

次いで、来賓の安東隆副知事と農林中金福岡支店及川勝治支店長から挨拶があった。議事においては、上程された12議案はすべて可決承認された。

その後、その他の質疑事項の中で、津久見支店の組合員から養殖業者に対する本店の対応についての緊急動議の提案があったが、当該動議における要望事項については当日の第4回理事会で検討するとのこと総会を終了した。

サワラの中間育成

瀬戸内海のサワラ資源を増やすため平成24年度から瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会（大阪、和歌山、兵庫、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、福岡、大分の11府県と社）全国豊かな海づくり推進協会で構成）が共同で種苗生産と放流を実施している。

職員の皆様方、滞りなく無事に総会が終了しました。長期にわたる総会準備、お疲れ様でした。



放流種苗の計測



種苗受入（ホース利用）

4,089尾を昨年に引き続き神崎取次店の神崎漁港の中間育成筏に受け入れ、6月12日(水)に3,286尾を放流した。歩留まりは76.9%、放流サイズは72.9mmであった。昨年度と比べ歩留まりは7.1%増、サイズは9mm大

令和元年度大分県JF共済推進本部総会が6月17日(月)に開催された。各支店から19名の運営委員長等が出席し、共済連本所の高田明生常務理事が来賓挨拶をした。議事に入る前に、共水連から当漁協に対し会長表彰が行われた。

議題の平成30年度活動報告と令和元年度活動計画は異議なく承認された。本年度の推進本部目標は、昨年度と同じで、普通厚生共済（予ヨコ）450件、1,900百万円、生活合共済（くらし）100件、1,000百万円、漁業者老齢福祉共済（ねんきん）50人、国民年金基金（なぎさ年金）8人、乗組員厚生共済（フリコー）3,345件、16,840百万円、火災共済（カサイ）1,265件、23,200百万円。

共済本部総会

令和元年度

さかった。種苗受け入れから餌やり、放流と、組合員・職員の皆さんお疲れ様でした。

大分の梅雨入りは26日、1951年以降最も遅かった67年の6月22日の記録を更新した。今後は赤潮に注意。

編集後記



表彰状
 共済本部
 大分県
 大分県漁業協同組合 殿
 貴組合は「水産の普及推進に努力され他の模範となる成績をおこられました。よってこの栄誉をたたえ表彰いたします。」
 令和元年 6月 6日
 全国漁業共済協会 会長 齋藤 勲

また、キャンペーンはとも共済「未来」推進強化と女性疾病入院特約「ひぼん」推進強化を実施する。

訪問活動を行い、全戸訪問支援奨励」と推進母体再構築奨励」を実施する。